



高強度ゲート受注開始

応緑 スライド式、テロ対策にも

【姫路】 応緑（兵庫 県姫路市、河越祥郎社長）は、テロ対策などセキュリティ向上に適したスライド式耐衝撃性高強度ゲート「ガーディアンゲート」シリーズで、高強度仕様ゲートの受注を始めた。価格は仕様による。米ASTM規格の

中強度のガーディアンゲート（陸上自衛隊保良訓練場、沖縄県宮古島市）

衝撃基準相当で、防衛省や米軍などからも受注を想定している。同シリーズで2025年4月期には2億5000万円の売り上げを目指す。

高強度仕様の場合、6・8ト車が時速48キロで衝突して1・7メートルの侵入量で止まる、ASTMの衝撃基準「M30P2」相当の強度を満たす。ゲート本体を特殊強化構造にしたほ

か、特殊強化レールや特殊転倒防止構造を採用。地中埋設の基礎工事も行う。高強度仕様のほかに標準仕様と中強度仕様もそろえた。テロ対策では、地中

に埋めた上下稼働式杭の「ボラード式」の採用が多いが、歩行者が侵入できるほか、価格が高いなどの課題があったという。

ガーディアンゲートは歩行者の規制もでき、高強度仕様の価格はボラード式の半分の価格を目指している。すでにデータセンター（DC）向けで受注実績がある。